

行政・政策 大手行等 地銀・第二地銀 信金・信組等 証券・保険 ノンバンク・企業

働き方・学び 社会・文化 営業店 特集

紙面ビューアー デジタル 社説・コラム オピニオン 人事異動 話題のキーワード

セミナー・イベント

金融ジャーナル **ONLINE**

金融業界を網羅した我が国屈指の月刊誌

REPORT **TOUSHIN** **ONLINE**

独自調査データ満載 ニッキン「レポート」「投信情報」

# 宮崎太陽銀、若手行員に実践研修 本業支援の強化狙う

2026.06.27 04:35

人材育成

フォローする

コンサル

フォローする

保存する



実践的なソリューション研修に臨む入行5、6年目の行員（5月13日、本店）



## おすすめ

金融庁、AIエージェント開発 27年3月に無償提供

大手証券、職域営業を強化 現役世代の富裕層急増

百十四銀行、「吃音」理解向上へ 学生が行員向け講座

先輩から後輩へ贈る～七転び八起きの術 (12) 話し好きから聞き役へ 呉信金広島支店 悦木達也さん

ボルテックス、ビル小口販売 好調 258金

宮崎太陽銀行は5月、取引先の経営課題解決に向けた伴走型支援強化の中核となるソリューション研修の実践編に入った。実践研修は計4回、期間を空けたインターバル形式で行う。外部講師による座学に加え、顧客への同行訪問を組み合わせることで、行員のコンサルティング機能強化を狙う。黒木浩頭取は「地域の事業者が生き残るためにわれわれが一番活躍しないといけない時期」と位置づけ、地域経済への貢献に期待を寄せる。

同行は2026年3月期決算で増収増益を確保したものの、足元では物価高や人手不足が地元企業を圧迫し地域経済の後退が予測され、より踏み込んだ本業支援が急務となっている。

対象は、個人融資から事業性融資までを担う入行5、6年目の全行員19人。同研修は2年で1セットの集中プログラム。1年目は財務などの知識を得る基礎座学を中心に行い、26年度からは実践的な「現場で生きる力」の定着や顧客と事業性評価の対話ができる内容へ移行した。

26年度の集合研修は、5月13日の第1回を手始めに、7月、9月、1月に計4回行う計画。うち3回は外部講師が事業性評価や提案手法を体系的に講義し、受講生は担当先を想定した「本業支援検討シート」の作成を通じて提案スキルの底上げを目指す。

最大の特徴は現場連動型である点。9～11月には、講師と受講者が宮崎県内の取引先へ1回ずつ出向く同行訪問を予定。実際の案件を通じて確実な独り立ちを促す。さらに一律の課題は課さず、主管の地域活性化部が受講者と定期的にコンタクトを取り実務の障壁を把握。この「実務と研修の往復」を次回内容に反映させ、個々の進捗（しんちよく）に応じたスキル定着を目指す。

## アクセスランキング (過去1週間)

- 1 中企庁、中小の成長投資へ信用保証 限度額10億円規模で創設検討 責任共有50%の公算
- 2 浦郡信金、個人ローンウェブに転換 3カ月で273件実行
- 3 金融庁、地域銀のALM「全行点検」 金利上昇で難度高まる
- 4 金融庁、AIエージェント開発 27年3月に無償提供
- 5 郵政民営化委員長「民営化の本来の目的に変化ない」 公社色強い改正法成立受け
- 6 地域金融機関、内部監査の高度化探る 金融庁が勉強会 共同化も
- 7 全信協が全国信金大会 高市首